新幹線プレス

2011年10月7日	No.14
発行者	成　田　隆　浩
編集者	教　宣　部
ＪＲ東海労新幹線地本	

車掌の準備時間は果たして実測か？

2011年度協約協定改定・団体交渉より

団体交渉でのやりとり（抜粋）

組合：車掌の準備時間が不足している。これはサービス労働で不当なことだ。実測し適切な時間を付加すること。
会社：業務に必要な時間は措置している。
組合：月初めは掲示がたくさん出る。そうでないときも車掌の準備時間はぎりぎりである。
会社：適正な時間を確保している。
組合：実際に計って見たらどうか。全く間違った認識である。
会社：そうとは考えていない。

必要な労働時間を確保するため実測すべきだ！

車掌の皆さん！出勤から乗務点呼までの準備時間は全く実態にそぐわないと感じませんか？

会社は交渉の中で「適正な時間を確保している」と言っていますが、明らかに業務の実態を無視しているといえます。車掌は出勤後、『車掌端末受け取り、掲示の確認、車椅子等の乗車、団体旅客の乗車確認、日報の準備』等々たくさんの作業をこなしています。それをたったの１７分（クルー点呼まで）の間に終えることは到底不可能なのです。事実、３０分前は当たり前、１時間以上前に出勤する車掌の方も多くいます。月に換算すると平均１１行路乗務した場合、月１１時間、年間でなんと１３２時間にもおよぶ「サービス労働」となるのです。

乗務に必要な時間は労働時間だ！　これ当たり前！

会社は常日頃「時間管理の徹底」と言っているのもかかわらず、「サービス労働」の実態には目をつぶっているのではないでしょうか。新幹線の安全安定輸送は車掌の皆さんの「サービス労働」により確保されていると言っても過言ではありません。

私たちは実態に見合わない準備時間の見直しを求めるために、準備時間の実測を要求しています。労働条件改善に向けこれからも皆さんと共に闘っていきます。